

第8回 炉物理部会 総会('97/10/16開催)に於いて報告しましたように、試験運用として、部会ニュースをE-mailにて送付いたします。

本ニュース配布についてのご意見・ご要望があれば、編集小委員までお寄せ下さい。

また、将来的には、炉物理部会ホームページ内の会員名簿に、E-mailアドレスを掲載する予定です。今般、本ニュースを受け取られた方で、E-mailアドレスの掲載を望まない方は、至急、庶務幹事まで御連絡下さい。

6/Nov./97 炉物理部会 編集小委員 岡嶋成晃

目次

1. 「第8回 炉物理部会」総会報告
2. 国際会議の案内
3. その他

1. 「第8回 炉物理部会」総会報告

第8回「炉物理部会」総会が、沖縄コンベンションセンター・沖縄ハイツで開催の「原子力学会1997年秋の大会」の第3日('97/10/16)に開かれた。当日の主な議事、報告事項を以下にまとめる。

1-1 炉物理部会運営委員会の報告(委員長 平川直弘/東北大)

(1) 第7回総会において、炉物理部会運営委員会での検討に一任された「PHYSOR96からの寄付および古橋基金の使途」についての結果が報告された。

(ア) 夏期セミナーへの若手参加助成金

若手の夏期セミナー参加への援助に、毎年30万円程度を上限として支出する。

なお、本運用は、平成9年度から開始する。

(イ) 運営委員会の開催費

炉物理部会運営委員会の開催費用(会場使用料等)への支出に充てる。

(ウ) 若手研究者を対象とした賞の創設について

成田委員の報告を元に若手研究者への賞の創設について検討したが、部会独自に運営するのは難しい面が多いことが報告された。

(エ) 部会ホームページ作成とそのためのパソコン購入

部会ホームページ(平成9年10月から試験運用開始、学会ホームページ(<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/aesj/>)にリンク)を開設する。また、ホームページ作成に必要なパソコン(ノートタイプ)を購入する。

(オ) 部会主催の懇親会開催について

小林委員より、部会の活性化を図る目的で、学会時に「部会主催の懇親会」を開催し、若手に補助をする案が出され、話し合われた。結果として、次回学会時に試行してみる方向で検討する事で一致した。この検討及び試行時の世話人を小林委員及び北田委員(若手小委員会)が行うこととなった。

項目(ア)、(イ)、(エ)については、本総会に於いて、拍手でもって了承された。

また、項目(ウ)については、今後更に運営委員会で検討することとなった。

(2)部会セッション

部会セッションについての検討を行い、1997年秋の大会では「最近の炉物理国際ベンチマーク計算」、1997年春の年会では「中性子寿命に関する討論会」を企画していることが報告された。

(なお、運営委員会の議事録は、炉物理部会ホームページを参照)

1-2 平成10年度運営委員候補者の紹介

平成10年度運営委員候補者が検討中であり、本ニュースを通して検討中の候補者を予め部会員に周知することが報告された。

以下に候補者(敬称略)を示す。なお、括弧内は予定任期である。括弧内は任期を示す。

部会長(1年)	北大 成田 正邦
副部会長(1年)	アイテル 青木 克忠
庶務幹事(1年)	北大 沢村 晃子
財務小委員会(1年)	九大 工藤 和彦(留任)
(2年)	日立 三田 敏男
編集小委員会(1年)	日立 丸山 博見(留任)
(2年)	近畿大 橋本 憲吾
(1年)	東北大 岩崎 智彦(部会ホームページ担当)*
セミナー小委員会(1年)	東芝 川島 正俊
(1年)	未定
学術研究交流小委員会(1年)	京大 小林 啓祐(留任)
(2年)	原研 大杉 俊隆
学生・若手小委員会(1年)	阪大 北田 孝典(留任)
(2年)	原燃工 伊藤 卓也

*:部会ホームページが本格的に運営されるまでの暫定処置として新設された。

(なお、委員の常設及び任期等は、今後、相談によって決定する予定である)

1-3 炉物理夏期セミナー

(1)第29回炉物理夏期セミナー(鬼柳善明/北大)

第29回炉物理夏期セミナー(7/28～7/30、NTT北海道セミナーセンターで開催、63名参加)の会計報告が行われた(別添参照)。

(2)第30回炉物理夏期セミナー(川島正俊/東芝)

第30回炉物理夏期セミナーについての構想が紹介された。

日時:平成10年7月下旬から8月上旬

場所:神奈川県

テーマ・場所等については検討中であり、次期総会において、詳細な概要が報告される。

1-4 学会委員会からの報告

(1)企画委員会(山本宗也/東芝)

- ・学会会員数が減少しており、会員数増加に向けてワーキンググループを設置した。
- ・今後の学会開催は、近大(3月26～28日)、福井工大(予定)である。

(2)編集委員会(岩崎智彦/東北大)

- ・英文誌への投稿に関して、TEX format による提出が可能となった。将来的には、TEX format による提出の場合、投稿費の減額することが検討されている。
- ・和文誌の特集記事については、部会との連携を強めていく方向で検討されている。

1-5 その他

(1)KUCAの維持費復活に関する要望書について

(代谷誠治/京大炉 & 平川直弘/東北大)

KUCAでの維持費が平成9年度を最後に打ち切られる報告があり、炉物理部会から同装置の維持費復活に関する要望書を提出する旨の提案があった。提案に先立ち、打ち切りまでの経緯について報告が行われた。本件に関して、「本部会以外(例えば、原子力学会)からも要望書が提出されるべきである。」等の意見が出た。要望書の文案については、委員長が作成することになった。

(2)炉物理部会ニュースの送付について(岡嶋成晃/原研)

炉物理部会ニュースについて、部会ネットワークを通してE-mailによる送付(但し、アドレスのない会員には郵送)と、部会ホームページでの公開が検討中であることが、報告された。その一環として、試験的に、部会ニュースをE-mailによる送付と郵送の併用で、当分の間実施することが報告された。また、このE-mail送付の充実を図っていくために、会員各位からE-mailアドレスを庶務幹事または編集小委員へ送付するよう協力が求められた。

2. 国際会議の案内

2-1 INTERNATIONAL CONFERENCE ON THE PHYSICS OF NUCLEAR SCIENCE AND TECHNOLOGY

開催日:1998年10月5日～8日、

開催地:Radisson Hotel, Islandia, Long Island, NY, 米国

主催:American Nuclear Society/Reactor Physics Division/Long Island Section、

協賛: CNS、KNS、ほか

This conference is one in a series of biannual conferences organized by the Reactor Physics Division of the ANS with the assistance of other divisions and local sections. The last one took place in 1996 in Japan (Physor `96). As can be seen from the list of major technical areas above, we expect to consider both traditional reactor physics subjects as well as new science and technology that is linked to those traditional areas. Examples of the latter are the design of neutron producing accelerator targets and the design of neutron beams for medical applications.

We think that the conference will be an excellent opportunity for experts and neophytes alike to discuss the latest advances in the physics of nuclear science and technology.

MAJOR TECHNICAL AREAS

Nuclear Data, Neutron/Reactor Physics, Reactor Analysis, Particle Transport, Monte Carlo Calculations, Numerical Methods, Non-Linear Dynamics, Transient Phenomena, Space-Time Kinetics, Coupled Neutronics-Thermal Hydraulics Neutron Sources, Core Monitoring, Incore Fuel Management, Reactor Physics Standards, Reactor Physics Benchmarks, Nuclear Safeguards, Nuclear Instrumentation, Measurement Techniques, Fast Neutron Penetration, Neutron Dosimetry, Research & Test Reactors, Analysis of Nuclear Systems, Physics of MOX Fuels, Medical Applications, Space Applications, Spallation Physics, Actinide Burners, High Burnup Fuel

Deadline for Summaries January 5, 1998

Author Notification March 15, 1998

Deadline for Camera-Ready Full Papers May 15, 1998

Your summary should be 1000-1500 words with tables and figures counting as 150 words each. Three copies of the summary should be sent to the Technical Program Chairman Dr. Dimitrios Cokinos Brookhaven National Laboratory Building 197C Upton, NY 11973-5000 USA

Telephone: 516-344-2146; Fax: 516-344-7533; E-mail: cokinos@bnl.gov

問合せ先:

Web: <http://www.dne.bnl.gov/html/confweb/conf-98.htm>

General Chairman: David J. Diamond, Brookhaven National Laboratory

Tel: 516-344-2604; Fax: 516-344-5730; E-mail: diamond@bnl.gov

3. その他

3-1 炉物理部会ホームページの試験運用について

炉物理部会ホームページの試験運用を開始しました。URLは、以下の学会ホームページから、アクセスができます。会員からのコメントあるいはご意見等を庶務幹事までお知らせ下さい。

庶務幹事 岩崎智彦

(E-mail: tomohiko.iwasaki@qse.tohoku.ac.jp, Tel: 022-217-7910, Fax: 022-217-7900)

3-2 運営委員会からの連絡

前項1-5に即して及び部会内の連絡等を速やかに且つ効率的に行うために、E-mailによるネットワーク構築を図ります。そこで、会員各位のE-mailアドレスを庶務幹事までお知らせ下さい。

庶務幹事 岩崎智彦

(E-mail: tomohiko.iwasaki@qse.tohoku.ac.jp)

編集小委員 岡嶋成晃

(E-mail: okajima@fca001.tokai.jaeri.go.jp)

なお、E-mailアドレスを炉物理部会ホームページ内の会員名簿に掲載する予定です。E-mailアドレスの掲載を望まない方は、庶務幹事まで御連絡下さい。

3-3 編集小委員会からの連絡

編集小委員会では、部会報原稿として、「部会員からの声(自由投稿覧)：内容不問で、自由に投稿、意見を述べられる場」を常時募集しています。

また、部会ニュースの在り方を検討するため、及び部会報「炉物理研究」を充実させるため、会員の皆様のコメントあるいはご意見等を編集小委員会までお寄せ下さい。

編集小委員会 委員

岡嶋成晃 (E-mail: okajima@fca001.tokai.jaeri.go.jp)

丸山博見 (E-mail: hiromi@erl.hitachi.co.jp)

別添

第29回炉物理夏期セミナー収支報告書(案)

参加者63名

日時:1997年7月28日(月)~7月30日(水)

場所:NTT北海道セミナーセンター(札幌)

収入

科目	金額(円)	内訳
参加費(含、テキスト代金)	381,000	炉物理部会員 ¥6,000×25、 学会正会員 ¥8,000×13 学会非会員 ¥10,000×4、 学生部会員 ¥3,000×6 学生正会員 ¥4,000×6、 学生非会員 ¥5,000×9
宿泊費(食事込)	628,150	
懇親会費	123,560	
学生参加者補助費	300,000	炉物理部会から
見学会費	18,000	18名×¥1,000
広告料	270,000	9社×¥30,000
銀行利息	52	

合計 1,720,762

支出

科目	金額(円)	内訳
宿泊費(食事込)	628,150	
懇親会費	123,560	
テキスト印刷費	378,315	
講師謝礼等	175,000	
通信費	18,715	
若手研究会補助費	13,320	
学生参加者補助費	225,000	道外学生 ¥15,000 × 12、 道内学生 ¥5,000 × 9
見学会費	18,000	
会場使用料	63,000	
合計	1,643,060	

収支差額: 77,702 円

以上